

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年1月24日

【評価実施概要】

事業所番号	1173300193
法人名	社会福祉法人松仁会
事業所名	グループホームしんめい
所在地	355-0021 埼玉県東松山市神明町1-11-10 (電 話) 0493-25-2906

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年12月7日

【情報提供票より】(平成19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成10年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 7人、非常勤 0人、常勤換算 7人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り
	2階建ての1階～2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000円	その他の経費(月額)	15,000円+実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	150 円	昼食 250 円
	夕食	250 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 700円		

(4) 利用者の概要(11月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	0	名	要介護2	2	名
要介護3	4	名	要介護4	2	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均 88.7 歳	最低	80 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東松山医師会病院・シャローム鋤柄医院・大塚歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県内初の認知症対応型老人ホームとして平成10年に開設。現在は1ユニット9人の定員である。最寄りの駅より数分の住宅街の中にあり、大型スーパーや郵便局、図書館、病院、公園等にも近い。「ゆっくり・一緒に・楽しく」のホームの理念は、職員一丸となって日常の介護に貫かれている。職員と利用者が一つの家族のような生活を送っており、暖かく穏やかである。近くに畑を借りて野菜作りをし、当日のチラシを見て買い物に出掛け、献立を考え、皆で手分けして料理を作り、家族のように皆と一緒に美味しく楽しく食事をしている。ホームは板張りの内装に素敵な絵画や花をさり気なく飾り、使い勝手も工夫している。協体制度として母体となる特別養護老人ホームに介護支援センターが併設されており、大きな行事は揃いの浴衣やジャージを着て参加する。家族には詳細な月次報告書が送られる。警察との連携体制もとられ徘徊者連絡網や行政担当職員との連携、ネットワークもできている。時代の流れに応じられるようターミナルケアの検討もされ、地域密着型ホームとして前向きな活動姿勢が伺える。職員全員が常勤者で馴染みの顔での介護体制も特筆される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価結果は、玄関に掲示し、職員だけではなく、来訪者へも情報提供している。また、結果に対する到達目標を検討している。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については会議で話し合い、職員全員の理解を図り取り組んでいる。管理者の仕事の大変さも見えよかったとの職員の声も聞かれる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 昨年4月より要綱を作り運営推進会議を開催し始めた。自治会長、民生委員、市高齢者介護課職員、家族代表、職員、施設長の参加により2ヶ月に1回開催している。必要性を理解し、軌道に乗るよう前向きに努力している。運営推進会議で検討や意見があったことについては実現に努めている。市の管理者体験研修の受け入れ、家族会での情報交換のほか、災害時に向けては民生委員との協力で独居老人マップ作りにホームが参加したり、自治会長を通じ防災訓練に近隣住民の見学参加を得るなど、地域の中で生活するための協力応援体制をつくる努力を運営推進会議を通じて行っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) お花見、盆踊り、紅葉狩り、クリスマス会等行事の後等に家族との情報交換をして、家族の意見等を伺っている。定員が少ないため家族会は開催していないが、情報交換はされている。家族に対しては綿密な報告がなされている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の花いっぱい運動に参加し、地域住民としての役割を果たしている。老人会には参加していないが、ごみ収集当番も務め、地域との繋がりを大切に考えている。運営推進会議に自治会長や地域住民代表の参加を得たり、当ホームの防災訓練に近隣住民の見学参加を勧誘するなど地域との連携を大切にしている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

☐ 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	人格を尊重し、その人らしい支援を基本にその人の有する能力に合わせて「ゆっくり、一緒に、楽しく」をモットーに支援している。地域の中で暮らし続けることを大切にした地域密着型サービスの理念を反映した内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念を十分理解している。理念を現場の介護に生かすために、馴染みの顔が介護する体制や利用者の重度化に配慮しつつ、作業療法も兼ねて畑を借り、花壇や野菜作りを行い、日々の生活を楽しめるよう工夫している。また、3食手作りの食事は利用者一人ひとりができる事を発揮する自己表現の場となっている。日々の生活を互いに支え合い、事業所の理念やモットーが職員のチームワークと高い介護理念により着実に実践されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しており、地域の花いっぱい運動に参加し、花壇への水やり当番を毎週火曜日に務めている。また、ごみ収集の当番も務め、地域との繋がりを大切に考えている。地域の情報源となる広報も届けられている。近所づきあいやネットワーク作りの大切さを充分認識しながら、具体的な活動を通じて、理念やホーム事業の説明を地域にされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	玄関に昨年の外部評価の結果が掲示され、職員のみならず訪れる人にも情報提供している。評価の意義も理解され、会議では職員全員で自己評価を行っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、昨年から自治会長、民生委員、市担当者、家族、ホーム職員、施設長を参加メンバーとして2ヶ月に1回開催していたが、出席者が少ないなどの理由から中断している。運営推進会議を通じて家族会の情報交換や災害時の応援体制について話し合わせ、民生委員の作る独居老人マップ作りに当事業所も参加した。また、自治会長を通じ地域住民に当事業所の防災訓練の見学参加を知らせている。	○	少ない開催回数ではあるが成果を確実に挙げている。全員の出席が不可能な場合であっても、継続することが大切であり、再開されサービス向上の会議につながる会議となるよう努力していただきたい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	関係書類の提出や運営推進会議の他、市の管理者体験研修の場として当事業所を提供し、福祉現場の実情の理解を深めていただき、交流の場となっている。市町村とは協議しながら一緒に問題を解決していくように努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族会は実施していないが利用者数が少ないので家族の訪問時や電話で日ごろの暮らしぶり等報告し、家族の意見等を伺う他に月次報告書でも利用者の様子を報告している。また、お花見や紅葉狩り、クリスマス会等の準備や案内もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	機会を捉えて家族の意見や提案は伺っている。また、意見箱も設け、直接運営者側に意見を言える仕組みを作っている。家族会がなく面会に来られない方もいるが、運営推進会議等でも家族代表の方から意見等を伺う機会がある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	全ての職員を常勤にして、異動や退職による利用者へのダメージを最小限に抑える努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム開設時に同一法人運営の特別養護老人ホームから3名が異動しており、研修は講演会の他、人工呼吸、防災訓練等の実技研修を行っている。職員全員の職場研修は暫く実現していないが、管理者や副主任の研修は実施している。職員の学ぶ意識は高く、自分で専門誌を購入したり、外部の研修に個人で参加している。	○	職員は特別養護老人ホームからの異動なので、新人採用時のような研修機会がなくとも支障はないが、グループホームならではの必要な知識や技術が求められる。時に夜間緊急時の対応や、ターミナル期の方の介護力等については計画的な研修の機会を是非検討して欲しい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しているが、出席が難しい。市内5ヶ所のグループホームの見学と情報交換等の交流を持つようにしているほか、運営推進会議のメンバーとの交流も行っている。	○	管理者の対外的な交流は実現している様子だが、職員の交流の場が計画的に実現されるとさらに良い。ネットワーク作りや勉強会、情報交換の場を持つことにより、お互いにサービスの質の向上につながると考える。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居から徐々に馴染みの関係を作りながら入居するシステムをとっている。デイサービスセンターからの利用者も3人いる。見学は随時受け入れ、実態調査で充分確認し、入居していただくよう支援している。本人の意思が決まらぬまま家族の都合で入居される方については、入居後に職員やサービスの場になかなか馴染めず、対応に苦慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	炊作りや食事作りの場面で、利用者の生活の知恵や技術に驚くことがあり、職員は支えられていると感じている。決してお世話しているという一方的な関係ではなく、人生の先輩から学ぶ姿勢があり、共に支えあい喜び合える関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の実態調査はもとより、24時間行動チェックをするセンター方式をとり、個別性を把握していくように努めている。さらに、ケアをする中で本人の思いや意向を捉えたり家族から伺うこともある。できる限り思いや意向を捉え、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月に1回はケアチェックをし、利用者の生活リズムや行動パターン、家族の意向などを参考にアセスメントをしている。毎月第4金曜日を介護計画の検討日とし、職員の意見も聞いた上で介護計画担当者が立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則3ヶ月に1回は見直しをするが、異常があった場合は3ヶ月を待たずにその時点で計画の変更を行っている。また、必要に応じ、常時見直しすることも行っている。介護計画の変更は、月次報告において家族にも知らせ、後日家族が来訪した際に確認してもらっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	定期受診や理美容院の利用時は原則家族が同行するが、緊急時等の受診は職員が同行支援している。理美容も職員で良ければ職員がカットをするなど状況に応じて柔軟にサービスの提供を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に受診時の対応を確認して、本人や家族の希望する医療機関で受診できるようにしている。また、入居前からのかかりつけ医の受診を希望される場合も、事業所指定医の受診の場合であっても、家族の都合や緊急を要する場合は職員が通院支援を行っている。受診結果は家族に報告し、情報の共有を図っている。歯科医は定期的往診体制がとられている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合には、かかりつけ医との連携や往診、訪問看護で対応し、必要に応じ入院や同一法人運営の特別養護老人ホームに転出することなどの対応方針は決めている。また、入居時に医療連携の説明はしているが、ターミナル期の方針の共有や早期からの話し合いは今後の課題となっている。	○	入居時に医療連携の説明をされている。ターミナル期の対応について職員教育を進めるなど時代の流れに応じられるような取り組みを検討されたい。看取りについての対応や家族の希望など機会を捉えて確認することが今後の課題である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護は原則同性対応とし、個別介護が徹底されている。接遇を大切に考え、介護における禁句集を作成し、職員教育に使用して職員に徹底し、利用者の自尊心を傷つけない工夫などもしっかりされている。記録類は鍵のかかる場所に保管し、必要時に開錠するなど個人情報の取り扱いについても十分配慮されている。また、個人を特定する写真の扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「ゆっくり、一緒に、楽しく」の理念の下に、生活歴や生活習慣などを十分に確認し、その人なりのペースで安心して暮らしていけるように支援している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、近く的大型スーパーから食材を買っているが、利用者とともに畑で育てた野菜も使用している。食事は1日3食とも利用者が調理に参加する手作り、利用者が活躍する場面が見られる。利用者の中には、職員が舌を巻くほどうどん打ちが上手な方や、和え物に使うゴマをするのが上手な方もいて、それぞれの特技を活かしている。食事は職員も一緒に頂き、楽しく美味しい食事の時間が広がっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重度化してきた利用者は全介助の入浴またはシャワー浴で対応している。職員の手のある時に限らず可能な限り夕方の入浴も希望に応じて行っている。シャワー浴は失禁対応に随時使用し、入浴不可能な場合は清拭や足浴で対応している。普通の家庭風呂で安全対策も工夫されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	将棋や野菜作り、花壇作り等体力や好みに応じて行っている。自分の趣味の作品に囲まれた生活も体力に応じ作れない状況になってきた人もいるが、できる事をゆったりゆっくり自分流に行えるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物と車椅子での散歩は毎日午前と午後に分けて出掛けしている。デイサービスとの交流もあり、体力に応じて遠出は無理でも近くに散歩に出かけ、生活に潤いを持たせる努力をしている。大型スーパーへは毎日の買い物と散歩を兼ねて出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	門扉や玄関、階段の3箇所にセンサーを設置し、3種の音で聞き分ける仕掛けで外出を把握する仕組みがある。ただし、安全を考慮し、門扉からは出られないように外鍵を掛けている。少しでも鍵を掛けず、安全を確保できる仕組みを工夫している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災関係の連絡網やマニュアル、防災訓練の記録が整備されている。年4回、搬出訓練も実施している。緊急時対応やSOSネットワークなど支援体制も取られている。同一法人の特別養護老人ホームからの支援体制や、防災訓練時に近隣に呼びかけるなどすることで、民生委員や自治会との連携もあり、地域の応援体制も得られる状況になっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	手作りの食事はほとんど完食されている。状態に応じて軟食や刻み食等の工夫もしている。水分摂取については、利用者がいつでも飲めるようにお茶などが用意されているほかに、お茶の時間を使っている。摂取量の記録も取られている。献立は特別養護老人ホームの栄養士の点検を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	隅々まで清掃が行き届き、ホーム内の壁には落ち着いた雰囲気の絵画が飾られ、花もさり気なく飾られているなど、普通の家庭を訪問した感じで好感が持てる。居間は広いとはいえないがゆったりした椅子が居心地よい。浴槽が深めであり、廊下にも段差があるが、工夫を凝らして利用しやすく改善している。狭いキッチンも使い勝手を工夫している。2棟を繋ぐ渡り廊下には籐椅子とテーブルがあり、利用者が会話するにはよい場所である。冷暖房の調整は職員が行うが、冷房を嫌う人もあり扇風機と窓の開閉で調整している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	2棟を渡り廊下で繋ぐ構造の上、居室がみな同じ構造なので、居室を間違いやすいが、表札がそれぞれに掛けられている。居室はベッドの方、畳の方等それぞれ体力や好みに応じて使用している。室内は好みの物やその方のこれまでの生活の匂いのする品々が思い思いに飾られ、落ち着いた生活空間になっている。入居時に位牌などを持参している人もおり、終の棲家としている様子も伺える。		